

◎景気ウォッチャー調査[2019年2月]

2019年2月の中国地域調査結果の概況

■景気の現状に対する評価

現在の景気を3か月前と比較するとその評価は次のとおりであった。

景気の現状判断DI(合計)は、前月を1.6ポイント上回る47.9となった。

分野別にみると、家計動向関連は、「悪くなっている」「やや良くなっている」の回答の割合が減少し、「2月前半は1月同様にストールやマフラー、手袋など冬物処分セール動きが鈍かったが、後半はバッグ、アクセサリーを中心に春のフォーマル商品の目的買いの客が多く、前年並みの売上にまで回復している。」(百貨店)、「新規の来客数が微増であるが、自社ブランド車間での乗換えが減少している。展示会でも来客数の変動はなく、購入見込み客が増えない。」(乗用車販売店)等の理由から、「変わらない」の回答の割合が増加したため、前月を1.2ポイント上回る45.5となった。

企業動向関連は、「やや悪くなっている」の回答の割合が減少し、「円安基調等により、造船各社は足元の四半期決算を黒字化できている企業もあるが、船価の低迷や鋼材の高騰等のコスト高は変わらず、やや悪い状態が続いている。」(輸送用機械器具製造業)等の理由から、「変わらない」の回答の割合が増加したため、前月を1.6ポイント上回る52.3となった。

雇用関連は、「変わらない」「やや悪くなっている」の回答の割合が減少し、「有効求人倍率は高水準を維持している。各製造業種の生産も堅調に伸び、個人消費も上向きである。」(新聞社)等の理由から、「やや良くなっている」の回答の割合が増加したため、前月を4.8ポイント上回る56.3となった。

	2月	1月	前月差
合計	47.9	46.3	1.6
家計動向関連	45.5	44.3	1.2
企業動向関連	52.3	50.7	1.6
雇用関連(参考値)	56.3	51.5	4.8

■景気の先行きに対する評価

現在より3か月先の景気の先行きに対する評価は次のとおりであった。

景気の先行き判断DI(合計)は、前月を0.5ポイント上回る50.2となった。

分野別にみると、家計動向関連は、「やや悪くなる」の回答の割合が減少し、「春の花のイベントが始まり、ゴールデンウィークも例年より長いので客足が伸びる。」(テーマパーク)、「決算時期なので客の購入意欲が向上しているが、出費に対しては厳しい考えの人が多い一方で、消費税の引上げ前の駆け込み需要が徐々に始まる。」(乗用車販売店)等の理由から、「良くなる」の回答の割合が増加したものの、「やや良くなる」の割合がそれ以上に減少したため、前月を0.7ポイント下回る49.1となった。

企業動向関連は、「変わらない」「やや悪くなる」の回答の割合が減少し、「得意先より大型案件の受注が決まり、価格面では厳しいものの、増産につながることで全体の採算面は改善される。」(金属製品製造業)等の理由から、「やや良くなる」の回答の割合が増加したため、前月を3.7ポイント上回る50.8となった。

雇用関連は、「やや悪くなる」の回答の割合が減少し、「今後も多くの業種で人手不足感の強い状態が続く、来春の新規高卒者の求人倍率が2倍超と好調なほか、一般求人の求人倍率もバブル期以上の高い水準で推移する。」(職業安定所)等の理由から、「変わらない」の回答の割合が増加したため、前月を1.9ポイント上回る56.3となった。

	2月	1月	前月差
合計	50.2	49.7	0.5
家計動向関連	49.1	49.8	-0.7
企業動向関連	50.8	47.1	3.7
雇用関連(参考値)	56.3	54.4	1.9